



取得の動機

がん治療には手術（外科治療）、放射線治療、薬物療法、免疫療法など様々な治療法を組み合わせる集学的な治療が必要です。中でも薬物療法の進歩は目覚ましく、毎日のように新薬が登場し新しい治療法が生まれています。また、がん薬物療法は多種多様な薬剤を使用します。

薬物相互作用や代謝・排泄機能に応じた薬剤の選択、調節などは薬剤師の専門分野であり、職能が十分に発揮できる分野であるという点と、がん患者さんの近くで治療に携わりたいという思いから、がん分野の認定を取得しました。

がんに携わる薬剤師の仕事

当院では、主に5名の薬剤師ががん治療担当として業務を行っています。

【業務内容】

●抗がん剤プロトコル作成

新規レジメン申請時に、支持療法（制吐剤、抗アレルギー薬など）、抗がん剤の補液、投与速度、点滴ルート、フィルターの必要性など、詳細なプロトコ

ルを作成し、申請医師と内容を協議。
がん化学療法委員会の承認取得。

●抗がん剤投与量、スケジュール監査
過量投与や効果の減弱を防ぐため、投与量および休薬期間などをチェック。

●患者説明、副作用確認

抗がん剤治療開始時に、治療の流れや起こりうる副作用などについて資料を用いて説明。投与後は副作用発現の確認および副作用対処薬の処方提案を実施。

●抗がん剤調製

専用の部屋に備え付けられた安全キャビネット内で無菌的に調製を実施。

今後

超高齢社会を迎え、高齢のがん患者の割合はさらに増えると想定されます。そういった患者さんの中には、がんだけではなく様々な疾患を患っていたり、正常な臓器機能を有さない方（スペシャルポピュレーション）もいます。そのような患者さんへの薬物治療において、薬剤師の関与が特に必要だと考えています。患者さんが安全に治療を継続できるよう、チーム医療の一員として関

わっていきたいと思っています。

また昨今、医療従事者の抗がん剤曝露が問題視されています。当院では調製室や化学療法室の抗がん剤汚染調査を実施。その結果を元に抗がん剤汚染を拡散させない対策をしております。今後も定期的に汚染調査を実施し、職員の抗がん剤曝露についての啓蒙も行つていけたらと考えています。

【がん分野の薬剤師制度】

がんに関わる専門・認定薬剤師制度は以下の学会により認定されています。

●日本病院薬剤師会

がん薬物療法認定薬剤師(POP)
がん薬物療法専門薬剤師(OPS)

●日本医療薬学会

がん専門薬剤師(JOP)
がん指導薬剤師(JSOP)
詳しくは各学会ホームページをご覧ください。

●日本臨床腫瘍薬学会

外来がん治療認定薬剤師(APACC)
外来がん治療専門薬剤師(BPACC)

●日本緩和医療薬学会

緩和薬物療法認定薬剤師(BCPPP)

～お手軽にフレイル予防！ お家でできる健康づくり～

リハビリテーション室 主任 理学療法士 青木 英次



コロナ禍における不要不急の外出制限の呼びかけ、そして冬を迎える気温の下がるこの時期、「体を動かす機会」の減っている方が多いのではないでしょうか。

体を動かす機会が減ると、フレイル（虚弱）といわれる状態になるリスクが増加します。さらに、サルコペニア（筋肉量の減少）へと進むと、転倒し骨折する危険性や、生活習慣病となるリスクが高まり、要介護状態になる要因ともなります。そこで今回は、自宅で出来る簡単な筋力

トレーニングをご紹介します。

【注意点】

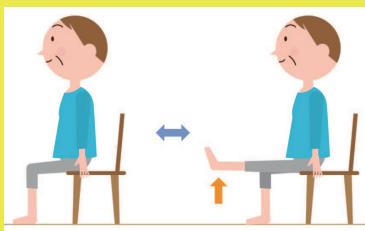
◆筋力トレーニングは息を止めず、呼吸を整えながら行います。

◆回数は1セット10回から始め、慣れてきたら3～4セットを目標に行ってください。

◆痛みや持病のある方は、医師にご相談の上、実施してください。

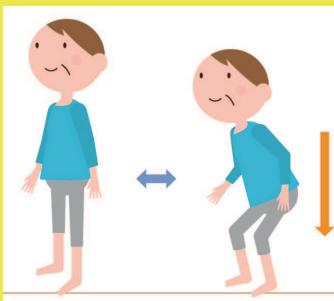
①膝伸ばし運動

椅子に座って、片方の膝をゆっくりとまっすぐに伸ばします。伸ばしきったところで、3秒止め、ゆっくりと下ろします。



②スクワット

立った状態から、軽くおじぎした姿勢でお尻を後ろに突き出すように膝を曲げます。バランスを崩しそうな場合は、机や壁に手をついて行ってください。それでも困難な時は、椅子からの立ち座りでも結構です。



③かかと上げ運動

立った状態で、かかとを上げます。なるべく膝を伸ばした状態で行います。バランスを崩しそうな場合は、安定した椅子や机、壁などに手をついて行ってください。

